

## ①今野 均氏（片平地区連合町内会 会長）

### ～平時の地域づくりの重要性～

片平地区は、仙台市の中心部にあり、マンションが多く、高齢者や学生も多い地域です。

平成 21 年度に片平地区のまちづくり計画の作成を目的に「まちづくり準備委員会」を発足し、安全・安心確保、コミュニティ活性化、歴史・環境保全の 3 つの分科会を立ち上げました。当時、片平地区では、38 年前の宮城県沖地震の際、地域の住民をまとめられなかったという反省から、防災対策をまちづくりの一つとして位置づけて組織体制の整備や話し合いを進めていました。平成 23 年 3 月の東日本大震災発災時には自主防災のマニュアルは未整備でしたが、話し合いの土壌ができていたことが功を奏し、震災翌日には災害対策委員会を立ち上げ、各地域の情報交換や避難所の運営、各地域の対策にあたることができました。

想定外だったのは、都市型避難所である片平地区の避難所は、帰宅困難者や観光客等行き場のなくなった人でいっぱいになり、地域の人が利用できない状況になってしまったことでした。また、病院が重病人に対応しなければならなかったため、妊婦や軽症の患者は退院を余儀なくされ、そういった方々もたくさん避難所に来られました。このような状況の中、人的・物的被害、ライフライン、炊き出し状況等の震災対応状況を全員で確認し、記録として残し、その後内容の検証と課題の整理を行い、自助、共助、市役所への要請等の項目について方針を定め、仙台市に提出しました。

その後、この方針に基づき「片平地区まちづくり会」を中心に、地域防災体制の強化プロジェクトに取り掛かりました。具体的には、都市型避難所の特徴である外国人住民や新住民への対応、地元の学生を企画段階から巻き込んだ合同防災訓練の実施等が挙げられます。現在は、今までまちづくりに関わりのなかったマンション住民の巻き込みや若者に活躍の場を提供していく仕組みづくりに取り組んでいます。皆が繋がるのが防災・減災の第一歩で、地域が連携し役割分担しながら防災体制作りを行うことが大切です。

※片平地区で実施（作成）したもの：避難所運営ゲーム（HUG）、仙台発防災そなえゲーム、防災行動マップ

